「大橋川を親子で学ぼう! 船から山からまちあるき」開催レポート（11月、松江市）

大橋川沿いの改修工事現場や自然環境を見学し、和久羅山（わくらさん）にも登りました

大橋川改修とまちづくりへの理解促進を目的としたツアーが11月20日、松江市内でありました。市民21名が参加し、斐伊川流域の治水について学ぶとともに、大橋川改修の状況、自然環境、松江の景観を学ぶクルージングや大橋川を一望するための登山を行いました。（主催：斐伊川・神戸川治水問題松江地区協議会）

模型で大橋川改修を学ぶ

大橋川コミュニティーセンターの大型模型

一行が最初に訪れたのは、大橋川や宍道湖沿岸地域を水害から守るための情報を集めた施設「大橋川コミュニティーセンター」です。

参加者の注目を集めたのが、斐伊川流域の水の流れを再現した大型の機械模型。スイッチを押すと斐伊川から宍道湖に流れ込む水の量が一気に増え、やがて大橋川から松江市街に水があふれ出す仕組みです。さらにスイッチを押すと、大橋川改修をイメージした「堤防」が地面からせり上がり、松江市街に入り込む水をシャットアウト。見学者からは「分かりやすい!」と歓声があがりました。

水上からの風景を楽しむ

続いての大橋川クルージングでは、川の中流から下流にわたってガイドの説明を聞きながら大橋川改修の現場を見学し、川沿いの自然環境や市街地の景観視察を行いました。川面には様々な水鳥が行き交い、参加者は写真撮影に熱中しました。水上からの美しい風景を楽しみつつ、船は剣先川、朝酌川を下り、塩楯島をぐるりと回って矢田の渡し乗船場に着きました。参加者からは「川から見学して工事の様子がよくわかった」「大橋川は自然がいっぱいで楽しかった」と感想をいただきました。

完成した向島川排水門

山頂から水の流れを望む

和久羅山の頂上

最終目的地は松江市東部に位置する和久羅山。一行は前日までの雨でぬかるんだ道に苦戦しながら、約1時間かけて山頂に到着しました。頂上からは宍道湖、大橋川、中海と続く水の流れや、隣接する松江の街並みが一望できます。

参加者は「ツアーで習ったことと、実際の風景とが繋がった」「大橋川への愛着が深まった」など、笑顔とともに感想を語ってくれました。

ひめちゃん

大橋川コミュニティーセンター

[休館日]土日祝祭日・年末年始 [開館時間]9:30～16:00 [駐車場]なし
〒690-0887 松江市殿町383番地　山陰中央ビル1階
TEL（0852）28-3621 FAX（0852）28-3623
E-mail：izumo@cgr.mlit.go.jp
ウェブサイト：http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/comisen/

大橋川コミュニティーセンターは、松江市と島根県、国土交通省出雲河川事務所が共同して管理・運営をしています。
●パネル展示：松江市民活動センター（STICビル1階）〒690-0061 松江市白潟本町43番地

大橋川通信

大橋川改修情報紙

2017. 2
Vol.53
刊行／大橋川コミュニティーセンター

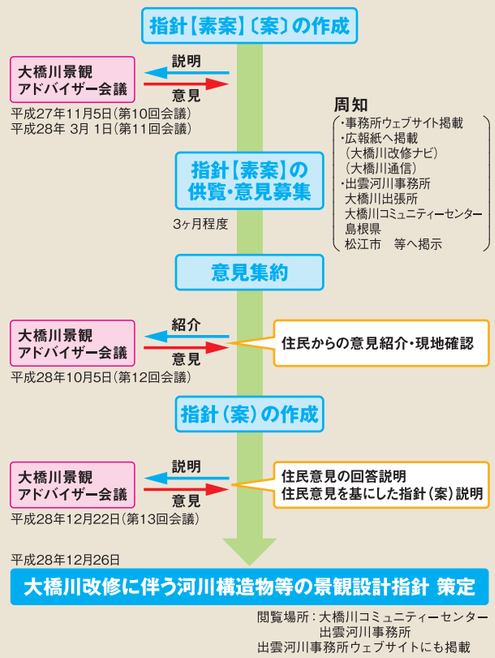
和久羅山から望む大橋川

大橋川改修の景観設計指針を策定しました!

大橋川改修の実施にあたっては、「大橋川景観形成計画」やこれまでの大橋川景観アドバイザー会議の審議内容等を踏まえ、より具体的な設計にあたっての留意事項をとりまとめ、長期にわたり一貫して景観に配慮した整備を行うことが重要となります。

景観設計指針の内容については、約1年半にわたり、有識者や地域の皆様のご意見を取り入れつつ議論を重ねてきましたが、12月22日の第13回アドバイザー会議で指針（案）について審議が行われ、策定に至りました。指針は、今後、改修を進めていく上で、河川構造物のデザインやしつらえなどを考える際の基本事項となります。

『大橋川改修に伴う河川構造物等の景観設計指針』策定までの流れ



インタビュー

景観設計指針の完成にあたって

大橋川景観アドバイザー会議
飯野 公央座長
（島根大学法文学部准教授）

審議の内容やポイントは

⇒「大橋川周辺まちづくり基本計画」等が掲げる水辺回遊公園都市構想を景観面で具体化するための方向性を示すのが今回の景観設計指針です。アドバイザー会議では、市民のみなさんから寄せられた意見を参考に大橋川の河岸で水に親しむ人々の姿を想像し、それを実現する景観とはどのようなものかを念頭に検討を重ねました。何度も現場に足を運び、取り寄せた候補素材の色彩、質感、形状など、城下町松江・水の都松江にふさわしい景観を委員自身の目で確認しました。

市民の皆さんに伝えたいことは

⇒景観設計指針には、今後のまちづくりの道しるべになってほしい、というメッセージが込められています。一度指針のもとに作られている松江地方合同庁舎（向島町）前の河岸に腰かけてみて下さい。石積み一つをとっても伝統的な技術と最新の知見とが融合し、まるでお城の石垣のような景観を作り出しています。市民・事業者のみなさんが松江のまちの歴史や景観について考えるきっかけになると思います。

大橋川改修の景観設計指針のポイント

デザイン方針

景観設計指針では、景観設計を検討する上での基本的な考え方となる5つのデザイン方針を掲げています。

①地域の特性を活かす
②景観になじんだ素材と技術を用いる
③川と人との関わりを豊かに
④地形を尊重する
⑤環境負荷最小化と自然回復力の活用

区間別の景観設計方針＆護岸素材の選定方針

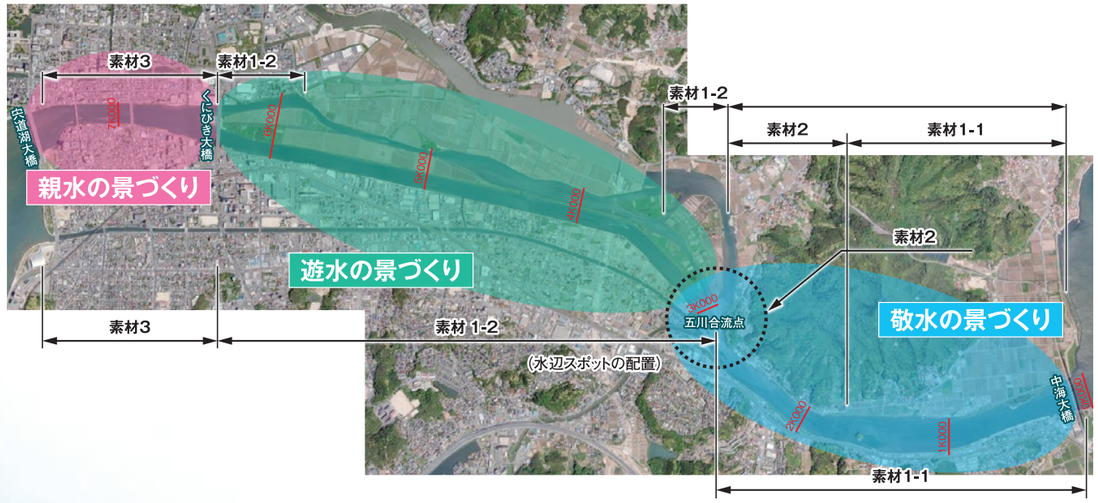
大橋川は、その場所ごとに異なった景観や人の営み、自然環境などを有しています。景観設計指針ではこれらの事情に配慮し、大橋川を「親水の景づくり」、「遊水の景づくり」、「敬水の景づくり」の3つに区分けした上で、それぞれの場所に見合った方針を定めています。

また、護岸素材の選定については、素材の明度や質感、大きさや積み方などの要素を踏まえた上で「護岸が景観に与える影響」という指標をもとに、4つの区分を設けています。

親水の景づくり
静けさを有する空間と、人々が集い行き交う賑わいの空間とが調和した、新時代にふさわしい景観とすること。水と人、川とまちの近さを生かすこと。

遊水の景づくり
川や水路、湿地などが織りなす自然豊かな水郷の景観を目指すこと。嵩山（だけさん）、和久羅山（わくらさん）などを望む、広がりのある伸びやかな景観を保全すること。

敬水の景づくり
古代から受け継がれてきた地域の歴史や文化を学び、敬い、後世に伝えていけるような景観とすること。人々と川との密接なつながりに配慮すること。



素材1-1 従来型の景観配慮タイプのコンクリートブロック

素材1-2 質感の高いコンクリートブロック

素材2 自然石（安山岩系を基本とする）

素材3 自然石（島石を基本とする）

今後、沿川各地域の皆様方と設計協議を行い、形状・構造を決定していきます。

天神川水門が土木学会デザイン賞 最優秀賞 を受賞しました！

みことくん

大橋川改修の一環としてH27.1宍道湖東部（松江市）に完成した天神川水門がこのたび、土木学会デザイン賞2016の「最優秀賞」を受賞しました。同賞は土木建造物や公共的な空間を対象に、設計技術等の創意工夫をもって周辺環境との調和を実現させた作品・関係者を表彰するもので、本年度は19件の応募がありました。天神川水門は、平成27年の「全建賞」（一般社団法人 全日本建設技術協会）、および平成28年の第23回しまね景観賞「大賞」（島根県）に続いての受賞となります。

操作室

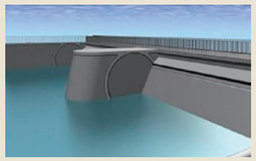
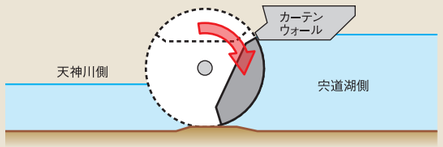
天神川水門

天神川水門の構造設計にあたっては松江市景観審議会における

●「県立美術館など周辺の景観に配慮する」
●「開かれた水辺の空間となるよう色彩や素材等、周辺の景観との調和に配慮する」
●「岸公園と白潟公園との一体性に配慮する」

などの意見をふまえ、円筒形の可動式ゲートを回転して締め切る「ライジングセクタ形式」を山陰地方で初めて採用しました。本形式とすることにより、門扉高を抑え、宍道湖畔の空間視界をさえぎらない構造とすることにより、構造体が景観に与える影響を最小限に抑えています。

出水にともなう宍道湖の水位上昇に備えて整備された天神川水門ですが、現在までのところ、幸いにして水門を操作する事態には至っていません。そのような中にあっても、維持管理用の点検稼働にあわせた住民の皆様への説明会を実施し、水門の役割について理解向上を図っているところです。今後も、天神川水門を適切に管理するとともに、住民の皆様に長く親しまれる土木構造物となるよう努めてまいります。


ライジングセクタゲート（洪水時）

水門見学会の様子